

科目名	国際研究特論1	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	熊谷 卓	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-3-350020	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的	<p>熊谷は在外研究活動としてNZ Auckland Law Schoolで国際法の教育・研究に従事した。それを踏まえ「本特論」では「(日本を含めた)世界の出来事を自分の事として考える」をキャッチフレーズに諸課題を学生と共に考究する。主要検討課題は(国際)法、安全保障、人権等である。</p> <p>*本講義(講義とあるが実際はゼミである)では配布資料(映像を含め)も相当部分が英語である。したがって英語が苦手だと受講しないことを勧める。また、受講生には、試験(中間試験と最終試験)、レポートに加えて各自の「報告」も義務づける。したがって単位取得は当然ながら厳しい。きわめて「専門ゼミ」的である。「特論」なので、以上のような厳格な形式を採用する。繰り返しになるが、単位取得のハードルは高い(例えば「就活」による欠席も認めない)。</p>				
学修到達目標	本講義を通じて当該学年の学生に求められるスキルが十分に身につく				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	NZ-1
第2回	NZ-2
第3回	NZ-3

第4回	NZ-4
第5回	NZ-5
第6回	NZ-6
第7回	NZ-7
第8回	NZ-8
第9回	NZ-9
第10回	NZ-10
第11回	NZ-11
第12回	NZ-12
第13回	NZ-13

第14回	NZ-14
第15回	NZ-15
第16回	テスト

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	テーマについて2時間の予習
【復習】時間・内容	テーマについて2時間の復習

成績評価	
評価基準・方法	1) テスト (中間テスト及び最終テスト)、2) 講義中の個人報告、3) レポート
フィードバック方法	適宜

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート

教科書/参考書	別途指示
受講上の留意点等	<p>上述のように、</p> <ul style="list-style-type: none"> * 本講義（講義とあるが、実質はゼミと変わらない）では配布資料（映像を含め）についてある相当程度が英語となる。そのため、英語の使用頻度が高くなる。英語が苦手である場合には絶対避けた方がよいと思う。 * 受講生には試験やレポートに加えて「報告」も義務付ける。よって、単位取得は相当厳しい。換言すれば、「専門ゼミ」的である。繰り返しになるが、単位取得のハードルは高い。
JABEE	